

善後會議ニ派遣シタル雲南代表並ニ王九齡等
 楊希閔ニ対シ唐ニ反対セシムル様運動セシムル等皆反唐派
 ノ雲南関係者タル李鴻祥、韓鳳樓、劉雲峰、張子貞 其他
 (雲南人又ハ曾テ雲南ニ在リテ重要ナル地位ヲ占メ皆唐繼
 堯ト前後シテ我陸軍士官学校ヲ卒業シタル者ナリ)ノ言ニ
 誤マラレ陰險ナル術策ヲ弄シ到底段政府ト提携スルコト能
 ハザルガ為メナリトノコトナリ然ルニ王九齡ノ入閣問題ニ
 対スル唐ノ態度唐繼堯軍ノ両広進出唐ノ善後會議ニ対スル
 觀測副元帥ノ就職等ノ遣口ニ徴スルモ王ノ教育総長就任善
 後會議ニ代表派遣ノ如キ寧ロ矛盾ノ措置ニシテ或ハ時局ニ
 対シ表面ヲ糊塗スル一種ノ手段ニ非ラズヤトモ見ラレ民国
 以来常ニ中央ト關係ヲ断絶シ其勢力圈内ニ於テハ中央ノ掣
 肘ヲ受クルコトナク任意ニ切廻ハシ来リタル唐トシテ自家
 権勢ノ伸張上却テ独立ノ繼續ヲ得策トシテ最初ヨリ段政府
 ト提携ノ意思ナカリシモノト思考セラル

楊雲ノ件

曩ニ北京ニ開催セラレタル善後會議ニ雲南代表トシテ出席
 シタル周鐘嶽、徐之琛、馬駘等ハ四月六日同會議ヨリ引揚
 ケタル次第並ニ教育総長王九齡モ亦之ト前後楊雲ノ途ニ就
 キタル次第ハ本年四月二十日付機密公第三二二号拙信ヲ以テ
 及報告タル処王ハ五月十七日周及徐ハ同二十三日馬ハ六月
 七日何レモ当地ニ帰着セリ周鐘嶽、王九齡ハ楊雲後病ト称
 シ一切面会ヲ謝絶シテ引籠リ居レリ

本件ニ関シ唐繼堯ガ本十一日本官ニ語ル処ニ掘レバ雲南政
 府ハ前記引揚ニ依リテ段執政々府ト全ク關係断絶シタル訳
 ニシテ王九齡ハ未ダ正式ノ辭職許可ナキモ帰任セザルハ勿
 論雲南ヨリハ参政ヲ派遣セズ又国民會議ニモ代表ヲ出サザ
 ル考ナリ元来雲南側ハ段政府ノ成立ニ多大ノ援助ヲ与ヘ王
 九齡ヲ代表トシテ接触セシメ善後會議ニハ周以下ヲ派遣シ
 タルニ不拘段政府ノ為スルハ唐ニ対スル誠意ヲ欠キ或ハ定
 滇軍總司令ノ名目ヲ有スル黃毓成ノ代表者ヲ唐ノ代表ト善
 後會議ニ同席セシメ或ハ密カニ袁祖銘ヲシテ雲南ヲ牽制セ
 シメントシ或ハ人ヲ香港ニ派シテ范石生ヲ援助セシメ或ハ

右御参考迄及報告候
 本信写送付先 在支公使、在上海總領事、在広東總領事
 代理、台灣總督
 敬 具

(2) 孫文死去關係

六八八 一月二十七日 在中国芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ手術ノ結果ハ肝臓癌ニシテコロコ四、五
 日ヲモ支エ得ザル容態ナル趣内聞ノ件

第九七号 (極秘)

一月二十六日孫文「ロックフェーラー」病院ニ於テ手術ノ
 結果肝臓癌ト決定シ生命茲四五日ヲモ支ヘ得サル容体ナリ
 トノ趣ナリ右ハ尾見博士カ係医ヨリ聞キ込ミ本使ニ内報セ
 ルモノナル処他ノ情報ニ依レハ二十七日朝引続キ昏睡状態
 ニアル趣ナリ

六八九 二月五日 幣原外務大臣ヨリ
 在中国芳沢公使宛(電報)

孫文ノ其ノ後ノ容態回電方ニ関スル件

第八七号

貴電第九七号ニ関シ孫文其ノ後ノ容態折返し回電アリタシ

六九〇 二月六日 在中国芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ病状治療ノ見込タザル旨通信省古島
 政務次官ニ伝達方依頼ノ件

第一二二号 (二月七日接受)

通信省古島政務次官ヘ左ノ通御伝ヘヲ請フ

貴電拝承孫文ノ病状ニ付過日当地ニ在リタル尾見博士等ガ
 「ロックフェーラー」病院ノ主治医ヨリ内密聞キタル処ニ依
 レハ病症ハ肝臓癌ニシテ切開シタルモ治療ノ見込ミ立タズ
 其儘ニシ置キタル次第ニテ要スルニ長持チセザルベキ実状
 ナリ

六九一 二月六日 在中国芳沢公使ヨリ
 幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ病勢漸次衰弱ヲ加エツツアル旨主治医
 ノ発表ニツキ報告ノ件

第一二六号 (二月七日接受)

貴電第八七号ニ関シ

大体ノ病状ハ往電第一二二二号ニ依リ御承知ノ処尚主治医ノ

発表ニ依レハ二日孫科来京面会後体温三十九度脈搏百四十ニ達シ一時危険状態ヲ呈シ其後三日ヨリ五日迄ハ体温三十七度内外脈搏百八乃至百二十ニテ概ネ安静ヲ維持シ来リタル由ナルカ六日ニ至リ発熱三十七度八分漸次衰弱ヲ加ヘ病勢緩和ノ為「ラヂウム」療法ヲ施シツアル旨発表セラレ側近者モ遽カニ今後ノ経過ヲ憂慮シ到底永持スル見込ナキモノト諦メ居ル趣ナリ

六九二 二月十九日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文家族及ビ国民党側評議ノ末孫文ハ退院シ
鉄獅子胡同ノ住宅ニ移リタル旨報告ノ件

第一五九号

(二月二十日接受)

過日来国民党ノ政客ニシテ「ロックフェラー」病院ニ出入スルモノ頗ル多ク為ニ病院側ニ於テモ甚ダ迷惑ヲ感ジ居ル趣耳ニシタルガ今回孫文家族及国民党側評議ノ上支那医師ノ診(脱)ヲ求ムル口実ノ下ニ孫文ノ退院ヲ申入レタルニ對シ病院側ニ於テハ重態ノ患者ヲ此際退院セシムルノ無謀ヲ説示シタルモ聞入レザル為病勢悪化スルモ病院側ニ於テ

孫文ハ三月十二日午前九時半終ニ逝去セル趣ナリ

(付記)

「東方通信」ノ報ズル孫文ノ遺言

三月十二日第九号

十二日北京発

◎孫文氏の遺言

孫文氏の遺言は今朝左の如く公表された
余国民革命に力を至す凡そ四十年其目的は中国の自由平等を求むるにあり四十年の経験を積み此目的を達せんと欲するには須らく民衆を喚起し世界と連合し以て平等に我に俟つの民族と共同奮闘するに在り現在革命尚未だ成功せず凡そ我等同志は努めて須らく余の著はす所の建国方略、建国大綱、三民主義及第一次全国代表大会宣言に照して継続努力し以て主張を貫徹し国民會議を開き及不平等条約を排除せんことを求むべく最も最短期間に其実現を促がすべし十四年二月二十四日孫文氏但右は昨日署名されたものである又家事に関し左の如く遺言した余は国事に尽瘁せる為財産と称する程の物を所有しないが書籍衣類住宅等は一切妻宋慶齡に与へ以て記念とする余の兒女成長し善く自立するに至らば各自愛し余が志を継がんことを望む云々

責任ヲ執ル能ハズトノ声明ヲ為シタル上退院ヲ承諾シタル結果孫文ハ二月十八日終ニ退院シ孫文ノ旅館トシテ準備シアリタル鉄獅子胡同ノ住宅ニ移レリ

六九三 二月十九日 在中国公使館付津田武官ヨリ
武藤參謀次長宛(電報)

孫文ハ最後ノ治療ヲ中国医師ニ托ス為ロック
フェラー病院ヨリ順維鈞宅ニ移転ノ件

支第六四号 (二月二十一日外務省接受)

孫文ハ昨十八日午後「ロックフェラー」病院ヲ退キ順維鈞宅ニ移レリ近親者ノ意向ニ依リセメテ最後ノ治療ヲ支那医師ニ托センカ為メナリ
依然重態ナルモ病勢ニ変化無シ

六九四 三月十二日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ逝去報告ノ件

付記 「東方通信」ノ報ズル孫文ノ遺言

第二三二号

六九五 三月十三日 在広東清水總領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

孫文ノ死去ニ関シ広東政府ヨリ通知越ノ件

第二〇号 (三月十四日接受)

孫文十二日午前九時半逝去ノ旨通知旁右本国政府ニ伝達アリタキ旨広東政府外交部長ヨリ本官初メ各国領事宛申越シアリタリ不取敢
公使へ転電セリ

六九六 三月十六日 幣原外務大臣ヨリ
在中國芳沢公使宛(電報)

孫文ノ葬儀ニ対スル我が方ノ措置ニ関シ訓令
ノ件

第一七一号
貴電第二三二二号ニ関シ

国葬ニ決定ノコト事実ナラハ貴官ハ不取敢段執政ニ対シテハ帝國政府ヲ代表シ又遺族孫科ニ対シテハ本大臣ノ名ニ於テ民国ノ元勳タル孫文ノ死去ニ対スル深厚ナル弔意ヲ表セラレ度シ將又孫ノ葬儀貴地ニ於テ行ハルル場合ニハ他トノ

振合ヲモ考慮ノ上花環ノ贈呈等可然御措置アリ度シ
参考トシテ広東ニ転電アリ度シ

六九七 三月十六日 在中国公使館付津田武官ヨリ
武藤参謀次長宛(電報)

孫文ノ葬儀ニ関シ報告ノ件

支第九十七号 (三月十八日外務省接受)

孫文ノ遺骸ハ十九日協和医院ヨリ中央公園社稷壇ニ移シ二
十四日ヨリ数日ニ亘リ告別式的ノ儀式ヲ行フ筈
尚政府ニテハ国葬ニ内定セルモ之ヲ受クルヤ否ヤ未定ナリ
而シテ本葬儀ハ南京ニテ行ヒ遺骸ハ紫金山ニ葬ルコトナ
ルヘシ

六九八 三月十七日 在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛

孫文ノ葬祭ニ関シ執政府ニ於テ哀悼令公布ノ
件

付屬書 三月十二日付執政府公布ノ孫文哀悼令

機密第一一三号 (三月二十五日接受)

大正十四年三月十七日

在支那

特命全權公使 芳沢 謙吉(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

孫文葬祭ニ関スル件

孫文逝去ニ対シ曩ニ執政府ニ於テ哀悼令ヲ公布シ又王未
(内務次長)及柏文蔚ヲ治葬委員ニ命シタル次第ハ不取敢
東方通信ヲシテ電報セシメ置候処茲ニ右哀悼令全文ヲ御参
考別添及御送付候間御査閱相成度尚葬儀ニ関シ執政府側ニ
於テハ国葬執行ノコトニ決定シ此旨孫文遺族ニ申入レタル
由言明シ居ル処民党幹部ニテハ国葬説及国民葬説ノ二派ニ
分レ頻リニ討議シ居リ三月十六日迄ハ未タ之カ決定ヲ見ル
ニ至ラス不取敢政府側ト打合ノ結果三月十九日靈柩ヲ協和
医院ヨリ中央公園内社稷壇ニ移シ同二十四日告別祭ヲ営ミ
引続キ約十日間同処ニ於テ一般ノ弔拜ヲ受クルコトニ内定
シ居ル趣ニ有之候併セテ御参考迄申進候也

(付屬書)

執政府公布ノ哀悼令

中華民國十四年三月十二日

臨時執政令

前臨時大總統孫文倡導共和肇新中夏辛亥之役成功不居仍於
國計民生殫心擘画宏謨毅力薄海同欽本執政夙慕著勲亟資匡
濟就職伊始敦勸入都方期克享遐齡共壽國是天胡不慙遽奪元
功軫念艱虞彌深愴悼所有飾終典禮著內務部詳加擬議務極優
隆用符國家崇德報功之至意此令

中華民國
臨時
執政
印

內務総長龔心湛

中華民國十四年三月十二日

六九九 三月十七日 中川大阪府知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

孫文死去ニ対スル本邦在留中国人ノ感想ニ関
スル件

外秘第三六九九号 (三月二十日接受)

大正十四年三月十七日

大阪府知事 中川 望

內務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

指定庁府県長官 殿

孫文死去ニ対スル在留支那人ノ感想

大阪中華総商會長 張友深

広東省ノ一寒村ノ子ヨリ身ヲ起シ終始一貫三民主義ヲ高唱
シ民国ノ自由平等ノ為ニ革命ノ為ニ尽ス事四十年清朝ヲ顛
覆シ現在ノ共和国ヲ造リタルハ一ツニ彼ノ功績ニ外ナラス
故ニ民国ニハ永久ニ記念サルヘキ偉人ニシテ今彼ノ死ニ対
シ段執政ハ大總統ノ礼ヲ以テ国葬ヲ行フトノコトナルカコ
ハ実ニ元勲ニ対スル当然ノ礼遇ナリ吾民国ハ常ニ政争相統
キ国民ハ不安焦燥ノ頂ニアリ此ノ時ニ当リテ民心ヲ纏ムル
ハ彼ノ手腕ニ俟サル可ラス段祺瑞張作霖ハ軍閥ヲ彼ハ民心
ヲ此ノ二方面ノ協力ニ依ラサレハ到底全民国ノ統一ヲ計リ
得ヘカラス此ノ重大時期ニ於テ彼ヲ失フハ民国トシテハ非
常ナル損害ト政局ニ大不安トヲ与フルモノナリ
彼モ亦統一セル民国ノ建設ノ成就ヲ見ス永眠スルハ遺憾ト
スル処ナラム殊ニ彼ノ率ユル国民党内ニハ左傾の分子多キ
事トテ今日迄彼ノ力ニテ庄ヘ来リタルモ適當ナル後継党首

ヲ得ルニ困難ニシテ四分五裂ノ止ムナキニ至ルヘシ」云々

同総商會理事 桑佐臣

孫文カ支那第一革命當時ニ於ケル功績ハ一般ニ認ムルモ彼ハ常ニ民族民権民生ノ三民主義ヲロニシテ近來慢心ノ体ニテ自己ノ勢力拡張ニ汲々トシ先年非常国民會議ヲ廣東ニ開キ軍政府ヲ造リ自ラ其ノ大總統トナリ全ク北京政府ヲ無視シ乍ラ民國ニ二政府アルカ如キ振舞ヲ敢テシロニ三民主義ヲ唱フルモ毫モ民意ヲ尊重セス近クハ廣東商軍團ノ武器ヲ無理解ナル方法ヲ以テ押収シ廣東ノ燒キ払ヒヲ企ツルカ如ク自己勢力内ノ国民ニスラ其信望ヲ失ヒ又彼カ客年神戸ニ渡來セル際阪神在留同國人ノ歡迎會開催ニ際シテモ在留人中其七分ハ之ニ反對シ彼ノ身辺スラ危險ナリシ有様ナリ彼ハ實際政治の手腕ヲ有セス只政界ヲ攪乱スル者ナレハ彼カ死ハ時局ニ何等影響スル処ナク今後支那各方面ノ協調上却テ便ナル可シ云々

大阪高等商業学校留學生 于善述

孫氏ハ大ナル理想家ニシテ兎角民國ニ軍閥ノ優勢ナル國ナルニ彼ハ穩健ナル文人肌ノ而モ民衆ニ基礎ヲ置ク大政治家

ニシテ清廉潔白ナル士ニシテ民國青壯年中崇拜者多カリシ有様ナリ客年ノ内乱ニ際シ一身ヲ賭シテ段祺瑞、張作霖ト妥協シ民國統一ニ努メ國民ノ不安ヲ除カンコトニ尽シ今ヤ北京入トナリ國民ハ彼ニ期待スル処多カリシニ彼ヲ永遠ニ帰ラヌ旅人トナル彼亡キ後ノ善後會議モ實際上何等効果ナカルヘシ今日迄ノ段、張ノ協調モ孫ノ与ツテ力アリシコトトテ今後ノ政局ニモ大ナル蹉跌ヲ生スルニ至ルナラン云々右及申（通）報候也

七〇〇 三月十七日

在蕪湖藤村領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

孫文死去ニ対スル安徽方面ノ反響ニツキ報告

ノ件

付屬書 安徽新聞論評摘訳

本往第一七号

（三月三十一日接受）

大正十四年三月十七日

在蕪湖

領事代理 藤村 俊房（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

孫文死去ニ対スル安徽各方面ノ反響報告ノ件

孫文ノ死去ニ対スル安徽各界ノ反響ハ区々ニシテ官庁方面ハ臨時執政令ニ基キ敬弔ヲ表スヘキ通牒ヲ所屬官署ニ発シ居ルモ各官憲共別ニ率先追悼會ヲ開クガ如キ意向ヲ有セサルカ如ク頗ル冷淡ニ之ヲ取扱ヒ居レリ蓋シ安徽ノ官憲ニハ民黨系勢力絶無ノ致ス所ナルヘシ惟タ青年學生間ニハ孫文景仰ノモノ渺カラス各学校方面ニハ或ハ追悼會開催ノ議ヲ開キ又ハ半旗ノ礼ヲ表セルモノアルモ是ハ一般的ノ表意ニ非サル如シ又言論界ノ反響モ別紙摘訳ノ如ク比較的低調ニシテ民岩報ノ如キ之ヲ袁世凱、曹錕ノ晚年ト同視シ居レリ

（付屬書）

安徽新聞論評摘訳

孫文ノ死ニ対スル安徽新聞ノ論評

一、三月十二日ノ民岩報ハ「弔中山」ト題シ民國偉人ハ孰レモ早死名ヲ為シ晩死ハ名譽ヲ毀損ス宋漁夫蔡松坡ハ其前者ニ袁項城曹仲珊ハ実ニ後者ノ著ナルモノナリ蓋シ大功ハ属次遽フベカラス令名ハ永保ヲ期シ難シ举措一タビ其当ヲ得サレバ拳世之ヲ譏罵シ志節一タヒ変セハ身ハ敗レ名裂カルルモノニシテ其生死ニハ殆ト無關係ニ属ス惟タ大功成リ

溘然トシテ長逝セハ世人ニ無窮ノ思慕ヲ与ヘ永ク名ヲ弗朽ニ垂レシム矣

中山ハ革命事業ヲ抱キ四十余年威武ノ為ニ屈セス時勢ニ因リテ易ヘス其志節ハ不変ト謂フヘシ而モ猶ホ毀譽相半ス況ンヤ中山以下ノ輩ニ於テオヤ今ヤ政局更張シ新機發展ノ時奄然物化シ世ト長辞ス其時ヲ得タリト謂フヘシ其死後ニ至リテ芳臭ノ殊アル必セリ

然レトモ民國ノ元勳ハ近々惟中山一人ノ存スルノミ而シテ中山モ亦死シ元勳尽ク尽キタリ今日ノ殘破ニ鑑ミ昔哲締造ノ難ヲ追念セハ軫々人ヲシテ唏噓落涙ノ感アルヲ免レスト冷評セリ

一、三月十四日ノ工商日報ハ「悼孫中山」ト題シ中山ノ死ハ泰山ノ頽梁木ノ壞乎中山ハ共和ヲ手造シテ然モ一日共和ノ福ヲ享ケス此風雪飄搖、戰雲密佈ノ際一朝溘逝ス責恨限ナシ、夫レ広義ニ就ケハ中山ハ民國ノ偉人、革命ノ先進ニシテ主義ノ人ナリ環境ノ牽制アリ志未タ果サスシテ広州ノ役アリ一部人ノ不滿ヲ買ヘリト雖モ中国ノ民國ハ中山ニ始マレリ焉ソ其微過ヲ以テ偉績ヲ蓋ハンヤ中山ハ国民党ノ領袖ニシテ今日ノ地位ト時期ノ重要ナルトハ一髮千鈞ノ重任

ヲ負ヒ中山ノ不幸ハ時局ノ不幸タリ故ニ其死ハ中山一人ノ為ニ悼ムニ非ス若シ狹義ニ言ヘハ中山此次ノ上京ハ南北統一ノ為メニシテ中山ノ信用ニ本キ其党ヲ卒フレハ和平ニ隣ニ足ルヘシ故ニ其死ハ南北ノ統一ヲ無形ニ破ルノ結果ヲ来サン中山ノ遺言ニハ殷々和平ヲ説キ其後人ニ囑セリ其民国ヲ重シ其後人ニ示ス何ソ其至レリヤト其死カ和平統一ノ関鎖ヲナセリト評セリ

七〇一 三月十八日 太田警視總監ヨリ
幣原外務大臣他宛

中国国民党東京支部主催ノ孫文哀悼会開催ニ

関スル件

外秘第六一六号 (三月十九日接受)

大正十四年三月十八日

警視總監 太田 政弘

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

指定庁府県長官殿

孫文哀悼会ノ件

孫文ノ死亡ト雲南ノ輿論報告ノ件

孫文ノ死亡ニ関スル報道ハ本月十六日ニ至リ当地各新聞ニ掲載セラレタルカ今日迄ニ対スル各紙ノ態度ハ冷淡ニシテ唯タ義声報カ十七、十八、十九ノ三日ニ渉リ又社会新報カ十七日ニ各其紙上ニ論説ヲ試ミタル外雲南政府機関紙民治日報初メ其他ノ諸紙ハ未タ沈黙ヲ守リ何等論評ヲ為サス義声報ハ「孫中山ハ革命ノ元勳ニシテ民国元年南北統一シテ臨時總統ヲ遜リタル後溘然長逝シタランニハ白璧無瑕ニシテ聖徳天ノ如ク秦皇漢武唐宋明祖等ト其烈ヲ比スルニ足ルノミナラス華盛頓ニモ一籌ヲ譲ラサリシナラン其時ニ死セシテ今日死セルハ惜ム可シ」ト述ヘ孫文ノ死ノ早カラサリシヲ恨ミ又同紙ハ「孫中山ハ民国ヲ手造シ革命ノ元勳ナルカ去年広東ヲ一炬ニ付シタル為メ広東人及全国人民ニ攻撃ノ口実ヲ与ヘタルカ專制ヲ推翻シ異族ヲ掃盪シタル勲烈没ス可ラス又目前京畿ニ病臥シテ善後會議ニ力争シ国民會議ヲ以テ国事ヲ解決センコトヲ主張シ段祺瑞ヲシテ終ニ其主義ヲ容納セシメ猶ホ顧忌シテ其欲スル所ヲ敢テセシメス国家正義ノ為メ努力スル所少カラサルナリ今ヤ正義ヲ主持スル人ヲ失ヒ国事解決上更ニ紛糾ヲ重ヌルニ至ル国家前途

昨十七日午後二時ヨリ神田区北神保町一〇中華基督教青年会館ニ於テ中国々民党東京支部主催ノ孫文哀悼会開催シタルニ来会者党员七十六名ニシテ雷昂ノ開会ノ辞ニ次イテ費哲民、李人一外八名ノ哀悼演説アリ午後四時三十分無事閉会シタルカ其ノ演説ハ大同小異ニシテ中華民國創造先覚者ヲ失ヒタルハ民国将来ノ対内外のニ多大ノ損害ヲ招致スルノ虞アリ此ノ時ニ当リ吾等党员ハ益々結束ヲ鞏固ニシ内外ノ難局ニ処シ故人ノ主義主張ヲ貫徹スヘク勇往邁進スヘキ責務アリ云々ト述ヘタリ

右及申(通) 報候

七〇二 三月十九日 在雲南糟谷領事ヨリ
幣原外務大臣宛

孫文ノ死亡ト雲南ノ輿論ニ関シ報告ノ件

公第三一号 (四月十三日接受)

大正十四年三月十九日

在雲南

領事 糟谷 廉二(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

途ノ為メ窮リ無キ悲ヲ抱ク」ト称シ其逝去ト国家ノ前途ヲ憂慮セリ更ニ同紙ハ「国民党總理ノ後継者トシテ馮玉祥、唐紹儀、唐繼堯等ヲ推戴スルモ馮ハ孫中山個人ノ意見ニシテ党全体ノ意見ニ非ラス又唐紹儀ハ実力ヲ有セス然ルニ中山ハ民国ヲ手造シ唐繼堯ハ共和ヲ再造セリ中山ハ革命ノ領袖ニシテ唐繼堯ハ護法ノ元勳ナリ黃興蔡鍔ノ物故シタル今日唐繼堯ヲ措テ他ニ望ヲ囑スル者ナシ」トシ孫文ノ死ト国民党總理後継者ノ問題ニ論及セリ

社会新報ハ孫中山ヲ悼ムト題シ「孫氏生前ノ行事ニ就テハ人ニヨリ議論アルモ此風雨飄搖ノ中国ニ於テ勲勞資望學識能力熱誠孫氏ノ如キ者多クヲ得可ラス我全国人士孫氏ノ死ニ対シ悼マサル者ナシ」ト云ヒ哀悼ノ意ヲ表セリ

本月十六日唐繼堯ハ本官等ヲ其自邸ニ招待シ花見ノ宴ヲ催シタルカ其際民国ノ元勳タル孫文ニ対シテハ国家ハ宜シク国葬ヲ営ミ其功績ヲ表彰シ其靈ヲ慰ム可キモノナリ就テハ直チニ執政政府ニ対シ国葬ニ関スル意見ヲ打電シタリ又雲南政府ニ於テモ追悼会ヲ举行シテ弔意ヲ表スル筈ナリト語リ且ツ孫文ノ死ハ支那ニトリテ一大損失ナルカ如キモ唐自身ニトリテハ兩広進出並ニ将来勢力ノ擴張上寧ロ好都合ニ

シテ一新機運ヲ開展シタルカ如キ口吻ニシテ内心甚タ得意ノ状アリタリ尚ホ当地要人中孫文ノ勲業ハ没ス可ラサルモ其死ハ段祺瑞政府及雲南側ニリ取テ却テ有利トナリタリト説ク者多シ

右御参考迄及報告候

本信写送付先 在支公使

敬具

七〇三 三月二十日 在広東清水総領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

孫文死去ニ関スル新聞報道等報告ノ件

公第七一号 (四月六日接受)

大正十四年三月二十日

在広東

総領事代理 清水 亨 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

孫文死去ニ関スル新聞報道等報告ノ件

本件ニ関シテハ屢次ノ東方通信等ニテ御承知ノ通りナル処尚新聞紙ノ報道其他ヲ綜合シ左ニ取纏メ及報告候間御査閲相成度此段申進候

敬具

記

三月十二日午前九時三十分孫文逝去ノ報同日午後二時大本營留守營ニ入電アルヤ大元帥代理省長胡漢民ハ直ニ之ヲ軍政各長官ニ通達スルト共ニ大本營會議ヲ召集不取敢胡漢民、伍朝枢、廖仲愷、古応芬、楊希閔、譚延闓、許崇智、劉震寰、程潛、鄧沢如、吳鉄城ノ十一名ヲ委員トスル葬儀籌備委員會ヲ組織シ同委員會ノ名義ヲ以テ軍政各機關及一般市民ニ対シ弔意ヲ表スル為

- 一、官公署及海軍ハ一ヶ月間半旗ヲ掲グルコト
- 二、在職各官吏ハ一ヶ月間宴会出席ヲ遠慮スルコト
- 三、一週間歌舞音曲ヲ停止スルコト
- 四、各官吏及軍隊ハ一ヶ月間喪章ヲ着クルコト
- 五、公文書用官印ハ一ヶ月間青「インク」ヲ使用スルコト等ノ服喪事項ヲ示達シタリ

十三日外交部長伍朝枢ヨリ各國領事ニ対シ正式ニ孫文死去ヲ通知シ併テ右本國政府ニ伝達方申越シタルヲ以テ不取敢可然弔意ヲ表スルト共ニ御来示ハ帝國政府ニ伝達シ置キタル旨回答シ置キタリ

嗣テ十七日ヨリ三日間ニ亘リ広東大学ニ於テ第一日、軍政

各界、第二日、農工商各団体、第三日、学界ノ順序ヲ以テ追悼大会ヲ執行シタルカ第一日ニハ軍政各界ヨリ多数ノ出席アリタル外各國領事、在港各國艦長等ノ外賓約三十余名ノ列席ヲ見タリ、焼香、祭文朗読ニ次キ胡漢民ハ孫氏ノ死ハ中国及世界ノ大損失タリ孫氏ノ遺言ニ「余ハ四十年間国民革命ニ努力シタルカ其目的ハ一ニ中国ノ自由平等ヲ求ムルニ在リ此目的ヲ達成センカ為ニハ必ス民衆ヲ喚起シ一致奮闘スルヲ要ス」云々トアルカ之ニ依リ吾人ハ孫氏カ國ノ精神民衆ノ精神タルヲ知り且同志ハ更ニ奮闘シテ革命ノ完成ニ努メサル可ラサルヲ知ル

トテ孫文ノ革命の精神ヲ称揚シ其奮闘ノ歴史ヲ述ヘタル後更ニ同志ノ奮起ヲ促ス処アリ次テ伍朝枢ハ英語ニテ

吾人ハ偉大ナル領袖タリ指導者タリ且市民タリシ孫氏ヲ亡ヒタルヲ哀シム

ト冒頭シ約四十分間ニ亘リ孫文ノ生立ヨリ其ノ革命の主義精神及奮闘ノ歴史ヲ詳述シタリ之ニ対シ主席英國総領事

「サー・ゼイムス・ジャミーソン」ハ「個人タル外賓ノ資格ニテ」ト前置シ簡單ニ哀悼ノ辞ヲ述ヘ露國代理領事「ヘルマン」亦熱烈ナル言辞ヲ以テ感想ヲ述フル処アリタリ

十八日ニハ農、工、商、約百団体三万人ノ列席者アリタル趣ニテ席間伍朝枢ハ政府ヲ代表シテ孫文臨終ニ於ケル「余ハ遺産トシテ書籍衣類及一小屋ヲ有スルニ過キス云々」ノ遺言ヲ引用シ故人カ能ク清貧ニ甘シテ只管労働者ノ利益ヲ謀ルコトニ努メタルヲ指摘シタル後其主義経歴ヲ詳述シ故人ノ称揚ニ努メタリ

十九日ニハ市内ノ各学校休業シ教職員学生約六万人追悼会ニ列席シタル由

尚新聞紙ハ連日各地ニ於ケル追悼会ノ記事及各地方ヨリノ弔電ヲ満載シ居レルカ十三日ノ民國日報ハ社論ニ於テ孫文カ革命ノ中途ニ死亡シタルハ甚タ遺憾ナリト冒頭シ

乍去孫氏ノ死ハ肉体ノ死ニシテ其志ハ尚存スルヲ以テ忽チ中国ニ幾多ノ中山生スヘシ故人ノ後継者ノ問題ハ抑モ論スルニ足ラス総理死ストモ主義尚死セス其主義ハ即チ我党ノ総理タリ世界ノ偉人タル「ワシントン」「リンカーン」近クハ「レニン」等皆未タ目的ヲ達セスシテ死シタルモ大事ハ之カ為ニ敗レサリキト論シ居レリ

本信写送付先 在支公使 汕頭領事、台灣総督

七〇四 三月二十一日

在汕頭内田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

孫文ノ逝去ニ関スル新聞論調報告ノ件

公信第四六号

(四月七日接受)

大正十四年三月二十一日

在汕頭

領事代理 内田 五郎 (印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

孫文ノ逝去ニ関スル新聞論調報告ノ件

孫文ノ死去ニ付テハ当地軍政府ハ人心ノ動揺ヲ防ク為メナリト称シ或ハ公電ナシト唱エ新聞登載ヲ嚴禁シ各国領事ニ對シテモ秘密ヲ守ラレンコトヲ要求シ居タル処今回漸ク広東ヨリ公電アリシ趣ヲ以テ本日其逝去ヲ公表シ新聞掲載ヲモ解禁シタル為メ各新聞ハ一斉ニ書立テ約一頁ニ拂リ孫氏ノ略歴臨終情形等ヲ掲載シタル外各紙何レモ論評ヲ掲ケタル処檢閲ノ關係モアリタルコト勿論ナルヘシト雖其論スル所孫氏カ四十年ノ間支那革命ノ為メ奮闘努力シタルヲ賞揚シ其完成セサルニ先立チ死去セルヲ歎ケル点ニ於テハ総テ論調ヲ一ニシ

其他大同小異ニシテ敢テ其主義政綱ニ関シ微細ナル批評ヲ加ヘタルモノ無之候

右何等御參考迄及御報告候

敬 具

本信写送付先 在支公使、台湾総督 広東

七〇五 三月二十四日

在中国芳沢公使ヨリ
幣原外務大臣宛 (電報)

孫文ノ葬儀ニ関シ閣議ハ国葬ト議決シタルモ

民党側ニ異論アルタメ未ダ決定セザル旨報告
ノ件

第二七二号

(三月二十五日接受)

貴電第一七一号ニ関シ

十七日閣議ニテ国葬執行ノコトニ議決シ此旨孫文致葬所ニ申入レタルモ民党幹部中国民葬又ハ党葬ニ依ルヘシト主張スルモノアリテ今猶何レトモ決定シ居ラサル処一方外交部交際司ヨリ二十日付半公信ニテ二十五日中央公園内斎場ニテ外交団側ノ弔問ヲ受クヘキ趣致葬所ヨリノ申出ニ接シタル旨ヲ以テ単ニ該申出ヲ移牒シ来リタル始末ニテ多分国葬トナラサルヘキヤニ思考ス而シテ右外交部交際司ノ通牒ハ外交団側ノ任意弔問ヲ受クル意味ニテ首席公使トモ打合セ

汕頭商報ハ孫氏ヲ米ノ「ワシントン」及露ノ「レーニン」ト比ヘ国ノ父ナリトシ「ワシントン」及「レーニン」死セルモ右兩國ニハ幾多ノ「ワシントン」「レーニン」在リト雖支那ハ如何若シ果シテ幾多無名ノ孫先生アラハ吾人敢テ支那ノ前途ヲ悲觀セサルモ今や潮梅ノ地戰雲漲リ北京中原ノ干戈猶熾マサルノ秋此ノ偉人ヲ失フト痛歎シ潮商公報ハ孫先生ノ死ハ人類ノ哀惜スル所南北ノ別國境ノ如何ヲ問ハス是レ先生ノ偉大ナル人格ノ致ス所ナリトシ天声日報ハ孫氏カ民衆救済公理ノ擁護ニ尽シタルコト及其學問道德ノ秀テタルヲ賞讃シ次テ世界經濟ノ不公平ト列強ノ帝國主義及資本主義的東亞侵略ニ對シ東亞民族ノ為メ蹶起シ人類永遠ノ平和ノ為メ努力セル孫氏ノ死去ヲ嘆シ中国人ハ宜シク先生ノ志ヲ体シ奮勉セサルヘカラスト説キ

平報ハ孫氏ノ死ヲ惜シミ吾人ハ孫氏ノ遺囑即チ「吾レ力ヲ革命ニ致スコト凡ソ四十年其目的中国ノ自由平等ヲ求ムルニ在リ」トノ句ヲ遵守シ先生ノ目的ヲ以テ吾人ノ目的トシテ努力繼續最後ノ貫徹ヲ試ミ人民ヲシテ真ノ自由平等ヲ得セシメサルヘカラスト述ヘ

タル結果ナル旨外交総長ハ説明シ居ル処我國ヨリハ參謀總長田中大將其他既ニ花環ヲ贈リ居ルモノ相当アルニ付外國側ヨリノモノハ見受ケサルモ右日本側ノ振合ニ鑑ミ差當リ閣下ノ名義ニテ花環ノミ贈ルコトトシ本使ノ分ト共ニ二十四日致葬所ニ送付シ置ケリ猶二十五日太田ヲシテ本使ノ名ニテ弔問セシムル予定ナリ為念

七〇六 三月二十五日

平塚兵庫県知事ヨリ
幣原外務大臣他宛

神戸ニ於ケル孫文追悼会ノ模様申進ノ件

兵外発秘第五九九号ノ二

(三月二十八日接受)

大正十四年三月二十五日

兵庫県知事 平塚 広義 (印)

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣 幣原 喜重郎殿

指定庁府県長官殿

孫文追悼会ニ関スル件

既報ノ如ク当地在留支那人等ハ本月二十四日午後一時ヨリ神戸中華会館ニ於テ孫文追悼会ヲ開催シタルカ出席者ハ領

事柯鴻烈総商會長鄭祝三、其他約三百名ニシテ主祭者ノ祭文朗読領事及各団代表等ノ弔詞演説王棠ノ演説（別報）^{（編輯）}小学生ノ哀悼唱歌等アリテ一同焼香ヲ終リタルハ午後三時ナリキ而シテ小官代理トシテ額額外事課長ヲ参拝焼香セシメタルカ当日参拝者全部ニ対シ「大元帥対時局重要宣言」ナルパンフレット一冊（目下翻訳中ニシテ参考トナルヘキ点ヲ発見シタルトキハ追報ノ見込ナルカ内相閣下ヘハ御参考トシテ実物ヲ添付シ置タリ）及孫文肖像写真絵葉書一葉宛ヲ配付シタリ

尚本追悼会ニ対シテハ孫文ニ反感ヲ有スル一派カ明カニ反對ノ氣勢ヲ揚ケ居タル關係上万一慮リ主催者柯支那領事ヨリ会場付近ノ警戒方ヲ願出タルニヨリ所轄警察署ヲシテ内密ニ警戒セシメタルカ同日午後三時異状ナク解散シタリ右及申（通）報候也

編註 欄外ニ別報「見当ラス」トノ記載アリ

七〇七 三月二十五日

在独国本多大使ヨリ
幣原外務大臣宛

在独中国国民党員主催ノ孫文追悼会ニ関シ報

コトニ有之又同シク列席ノ一人タル某独逸新聞記者カ中村官補ニ語リタル感想ナリト云フヲ聞クニ如何ニモ露支共產党ノ示威運動ノ如キ光景ニテ死者ニ対スル追悼会ノ如キ気分ハセサリシトノコトニ有之候右何等御参考迄及報告候也

七〇八 三月二十七日

関東庁警務局長ヨリ
木村亜細亜局長他宛

孫文ノ死ニ対シリ連邦政府ノ贈物ニ関スル件

機高収第一〇四三〇号ノ一

（四月一日接受）

大正十四年三月二十七日

関東庁警務局長

亜細亜局長殿

拓殖局長殿

在京関東長官殿

孫文ノ死ニ対シ勞農政府ノ贈物

勞農政府ハ支那革命家孫文ノ死ニ対シ哀悼ノ意ヲ表スルト同時ニ生前ノ功勞ニ酬ユル為形骸ヲ其ノ儘永久ニ保存スヘク高価ナルニツケル製柩ヲ贈ルコトニ決シ既ニ該柩ハ三月二十一日哈爾濱ニ到着シ近ク北京勞農大使館ニ向ケ發送ノ

告ノ件

機密第八号

（五月十三日接受）

大正十四年三月二十五日

在独

特命全權大使 本多 熊太郎（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

在独支那人ノ孫逸仙追悼会ニ関スル件

在独支那国民党員某ノ主催ニテ三月二十二日当地一料亭ニ於テ故孫逸仙ノ追悼会ヲ開催シ駐独支那公使ヲ始メトシテ在留支那官民学生多数ノ来会者アリタリ同会ニ列席シタル当館謀報者ノ報告ニ拠ルニ来賓トシテ参列シタル勞農大使「クレチンスキイ」ハ孫カ帝國主義的列強ノ压迫ニ対シ支那人民ノ擁護ノ為メ奮闘シタルハ共產党本部ノ深く感銘スル所ニテ孫ハ斯クノ如クニシテ勞農露国ト中華民族ノ提携結合ノ楔子トナレリ勞農露国ハ之ヲ紀念スル為メ露国ノ主要都市殊ニ差当リ先ツ露支交界ノ要地ニ孫ノ記念像ヲ建設スル積リナリト声明シタル趣ニテ同大使ハ右演説ヲ草稿ニヨリ朗読シタル事実并ニ其態度語調ニ照スニ恐ラク本国政府ノ内訓ニ基キテ演説シタルモノナル様感セラレタリトノ

予定ナリト云フ

七〇九 四月三日

在沙市市川領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛

沙市ニ於ケル故孫文ノ追悼会ノ状況ニツキ報

告ノ件

公第二二号

（四月二十二日接受）

大正十四年四月三日

在沙市

領事代理 市川 信也（印）

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

故孫逸仙追悼会状況報告

沙市ニ於ケル故孫逸仙追悼会舉行ノ議ハ北京武昌方面ニ於ケル進捗ニ刺戟セラレ沙市商界ノ遊星汪文燦（商界副會長）及言論界ノ領袖侯伯章（長江商務報主筆）等ニヨリテ首唱セラレ昨二日（陰曆三月十日）午後一時ヨリ便河晴川書院（湖北漢陽府會館）ニ於テ舉行セラレタリ

当日天氣曇天午後ニ入り微雨アリシニ拘ハラス荊州沙市各学生ハ隊伍ヲ整ヘテ市中ヲ練リ歩キ会場内ハ此等男女学生

並ニ各界有力者其他ノ参列者ヲ以テ立錫ノ余地無ク無慮二千余人ヲ算シ寄贈ノ輓聯四百余枚ヲ數ヘタルカ主祭官ノ来場ヲ以テ式ヲ举行シ学生団ノ音楽及合唱ノ間ニ主祭官、陪祭官ハ中央ニ安置セラレタル孫中山先生ノ影像ニ祭花ヲ具ヘ一堂三鞠躬ノ礼ヲ以テ式ヲ畢リタリ

(主祭官ニ当地第十八師三十六旅長劉宗儀ヲ、陪祭官ニ本官ヲ推薦セラル、本官寄贈ノ輓聯次ノ如シ

亜州列寧又逝驚震全球呈慘色

漢族明星遽隕謹將半旗誌哀忱

当日ノ光景中尤モ注意ニ値スルハ当地各界ノ一致協力ニシテ其盛況近年稀ニ見ル所、一昨年夏ノ排日運動ニ優リ又追悼会トシテモ大正二年本官長沙在勤時代举行セラレタル宋教仁(湖南人、袁世凱ニ暗殺セラレタリト称セラル)追悼会ニ比スルモ遙ニ盛会ヲ極メタルモノト断セラルル次第ナルカ孫段両派提携、段祺瑞執政ノ時期ニ由ルモノトハ云ヘ其平生ノ主張カ民心ノ奥底ニ潜在スル何物カヲ刺激シ国民思想ノ内部ニ共鳴スルモノアリタルニ非スハ斯クノ如クナル能ハサリシモノニシテ当日会場ニ於テ試ミタル汪商會副會長等ノ演說並ニ来衆等ヘ撒布セラレタル諸印刷物(国民

會議ノ開催、不平等条約ノ撤廃実現ヲ希望スル孫逸仙ノ遺言並ニ当地三育社発行孫逸仙略史)ハ重大ナル感動ヲ与ヘタルモノト觀察致サレ候
右印刷物遺言並ニ略史各一部相添此段及報告候 敬具
本信写送付先

在支公使(印刷物略)

漢口総領事(右 同)

七二〇 四月十二日

太田警視總監ヨリ
幣原外務大臣他宛

本邦在留中国各界有志主催ノ孫文追悼会開催
ニ関シ報告ノ件

外秘第八七七号

(四月十三日接受)

大正十四年四月十二日

警視總監 太田 政弘

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

指定庁府県長官殿

孫文追悼会開催ノ件

国難方殷問繼起何人

吾儕努力莫負先生

七二一 四月十七日

在ハルビン中村内務事務官ヨリ
外務省欧米局長他宛

孫文死去ニ対スルジノヴィエフノ弔電並ビニ
孫死亡後ノリ連邦ノ对中国政策ニ関シ申進ノ
件

哈秘第一二六号

(四月二十七日接受)

大正十四年四月十七日

在哈爾賓

中村内務事務官

外務省欧米局長殿

孫逸仙ノ死去ニ対スルジノヴィエフ弔電及露国ノ
对支方針ニ関スル件

孫逸仙ノ死去ニ対シ「ジノウィエフ」ハ三月十三日万国共產党中央執行委員會議長ノ資格ヲ以テ支那国民党中央執行委員會ニ宛テ左ノ電報ヲ発シ居レリ

記

孫中山先生追悼歌

革命四十年大業未成

彼蒼不憖遺奪我耆英

孫逸仙ノ死去ハ全世界ノ労働者階級ノ衷心痛惜スル所タリ
孫逸仙ノ死去セル瞬間ハ支那民族ノ自由解放運動ニ着手セ
ル時機タリキ支那無産階級者ノ革命運動ト支那反帝國主義
自由開放運動トハ進捗未タ遅々タリト雖モ根拠固ク且ツ一
致シテ運動ヲ起スノ機運ニ到達セリ

反帝國主義ノ世界無産階級ノ結束力完成セラレタルトキハ
則チ圧迫セラレ居ル諸民族ノ解放セラルル時ナリ支那民族
ノ革命運動ハ世界ニ対シ偉大ナル貢献ト好果ヲ結フヘキモ
ノタリ

万国共産党ハ支那民族ノ對抗運動ノ後方ニアリテ注意ヲ怠
ラサルモノナリ万国共産党ハ支那労働階級力偉大ナル成功
ヲナスノ前途ニ上リタルモ未タ其道程ノ遼遠ナルコトヲ知
悉ス「レーニン」主義ヲ奉スル万国共産党ハ東方諸民族ニ
革命運動ヲ指導セントス而シテ特ニ支那ニ重キヲ置キツツ
アリ万国共産党執行委員会ハ全世界ノ労働者階級ニ洽ク孫
逸仙ノ事業ヲ知ラシムルコトヲ努メントス

万国共産党執行委員会ハ其支部ニ至ル迄モ国民党カ孫逸仙
ノ遺業ヲ継承シテ成功センコトヲ希望スルモノナリ万国共
産党執行委員会ハ従来ノ如ク支那共産党カ国民党ト提携シ

産黨員ト打合ハセラナシ居レリ目下ノ状況ニテハ自由労働
者即チ苦力ニ対シテハ宣伝ノ見込ナキヲ以テ宣伝及連絡ハ
工場労働者ノミカ目的ナルモ数年後ニ於テハ支那ノ一大赤
化ノ実現ヲ見ルニ至ルカラハンノ方針ナリト云フ

通報先 警保局長、警視總監、欧米局長、朝鮮、関東、
各警務局長、北海道、京都、大阪、兵庫、神奈
川、山口、長崎、新潟、福井、福岡各長官、立
田内務事務官（貴官）

七二二 五月九日

太田警視總監ヨリ
幣原外務大臣他宛

加藤首相始め閣僚其ノ他内外人ノ参列セル芝
増上寺ノ孫文追悼会ノ模様ニツキ報告ノ件

外秘第一一三一号

（五月十二日接受）

大正十四年五月九日

警視總監 太田 政弘

内務大臣 若槻 礼次郎殿

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

指 定 庁 府 県 長 官 殿

三 中国政情 七二二

テ其目的ヲ完成スルコトヲ疑ハス支那民族ノ帝國主義者ヨ
リノ自由解放ハ蓋シ其實行ノ可能保証ヲスルコトヲ得ン孫
逸仙ノ記念トシテ終リニ支那ノ労働者及農民ノ健康ヲ祝ス

万国共産党中央執行委員会議長

ジノウイエフ

露国ノ对支方針

孫逸仙ノ死去後露国ハ国民党ノ状況カ不利ナルニ鑑ミ今迄
ノ露国トノ関係カ退歩スルコトヲ怖レ国民党ノミナラス支
那ニ対スル方針ハ積極ニ一変セラレ所謂思想的ニ支那ヲ丸
呑ミニスル方針ヲ樹テ先ツ第一步トシテ北方ノ支那モ渺ク
トモ南方支那ノ程度ニ労働者ヲ指導スル必要アリトシテ客
月支那共産党ノ巨頭タル李大釗、陳独秀（両名ノ入京ニ就
テハ立田事務官「貴官」ヨリモ通報アリタリ）譚平山等カ
窃カニ入京シ国民党内ノ非共産派ニ対スル策ヲ協議シ尚譚
平山（陳ノ補佐役）ハ「カラハン」ト会見シテ支那労働者
ノ赤化方針ニ関スル重要機密ノ方針ヲプログラムのニ作リ
タリト云フ其計画ノ一部トシテ北京、上海ノ学生ノ一団二
十六名カ工場従業員トノ連絡ヲ取ル為メニ哈爾濱ニ来リ共

孫文追悼会開催ノ件

首題追悼会ハ既報ノ如ク本日午後四時ヨリ芝増上寺ニ於テ
開催セラレ来会者日支人約三百五十名ニシテ内支那人約百
三十名、加藤首相以下小川、犬養、宇垣ノ各大臣（閣下）
及田中、床次両総裁後藤子爵、其他三井、三菱、大倉等多
数対支関係者ヨリノ花輪及供物ノ寄贈アリ導師正僧正松濤
舜海以下僧侶二十余名着席読経後主催者側頭山満列席者馬
伯援、郝兆先等ノ弔詞朗読アリ再ヒ読経裡ニ一同焼香シ午
後五時式ヲ終リ其レヨリ別席ニテ追悼談話会ニ移リ犬養通
相、江代理公使、陳任楨、張学載、蕭学海、萱野長知、高津
正道、松岡駒吉、武田信次郎及鮮人徐基俊等ノ演説アリタ
ルカ張、蕭等ノ支那学生ハ二十一ヶ条撤廃旅大ヲ還付スル
ハ孫ノ真意ニ添フモノナリト述ヘ高津、松岡等ハ日支無産
階級ノ提携ヲ説キ孫ノ現代社会思潮ニ理解アリシヲ称讃シ
各暗ニ自己ノ立場ニ結ヒテ有利ニ宣伝セントスルノ風アリ
シモ異状ナク午後六時五十分散会セリ

右及申（通）報候

重ナル列席者氏名

主催者側 犬養 毅

頭山 満

六四一

水野梅曉 萱野長知
宮崎龍介 小島七郎
後藤新平 鎌田栄吉
黒田長成 渡辺嘉一
副島義一 寺島誠一郎
倉知鉄吉 秋山定輔
臼井哲夫 佐藤安之助
久原房之助 佃 信夫
白岩竜平 共產主義者 高津正道
松岡駒吉 全日本普選連盟 武田信次郎
印度人 ラス・ビバリーボース
支那人 代理公使 江洪杰 錢穆孫
楊雪倫 中国青年会 馬伯援
雷 昂 学生総会代表 張学載
国民党支部代表 陳任楨 中華聖公会 俞顯庭
張振漢 于明信
方 治 華僑連合会代表 郝兆先
費哲民 徐学埏
楊陸鳳 林斯端

シタルカ我在留民モ多数出席シテ故人ニ対スル敬意ヲ表示
シタルコトハ支那側官民ニ極テ良好ナル印象ヲ与ヘタルカ
如ク之ニ反シ英米領事其他欧米人ハ数人ノ独逸人ヲ除キ殆
ト出席スルモノナカリシコトニ就テハ支那側ニ不滿ノ色アリ
タリ尚当日主催者側ニ於テハ来会者ニ対シ孫逸仙ノ写真
一葉宛ヲ寄贈セルカ右写真ノ裡面ニハ所謂三民五權主義、
建国程序最近時局解決ノ主張等ノ題目ヲ印刷シ又青島国民
党支部ニ於テハ「告市民」ト題シ一切ノ不平等条約ヲ取消ス
コト及内治ニ関スル孫氏ノ主張ヲ記載セル伝單ヲ散布シ又
学生中ニハ領事裁判權ノ撤廢、国民會議ノ速成、軍閥ノ打
破、海關ノ回收等ト記載セル旗ヲ携行セルモノモアリタリ
右及報告候 敬 具

本信写送付先 在支公使

(3) 広東政府関係

七一四 一月七日 在汕頭内田領事代理ヨリ
幣原外務大臣宛(電報)

陳炯明ノ広東攻撃林虎ノ江西省進出ノ情報申
進ノ件

旅大収回復援会代表 蕭学海 楊草仙
朝鮮人 徐基俊

以上

七一三 五月二十日 在青島堀内総領事ヨリ
幣原外務大臣宛

青島ノ孫文追悼会極メテ盛大ナリシガ英米領
事ノ出席スル者ナク又伝單散布等ニ関シ報告
ノ件

公第二二七号 (五月二十八日接受)

大正十四年五月二十日

在青島

総領事 堀内 謙介(印)

外務大臣男爵 幣原 喜重郎殿

孫逸仙追悼会開催ニ関スル件

客月十日青島市民孫中山先生追悼大会主催ノ下ニ当地斎燕
会館ニ於テ故孫逸仙ノ追悼会ヲ挙行シタルカ当日ハ支那側
官憲及学校等ハ孰レモ休業シ参会者約一万ニ上リ各方面ヨ
リ寄贈シタル輓聯帳子等頗ル多ク近來稀ニ見ル盛況ヲ呈セ
リ本官モ輓聯及帳子ヲ贈リ館員ト共ニ参列シテ祭文ヲ朗読

第一号 (一月八日接受)

旧臘二十七日陳炯明ハ愈粵軍総司令ノ職ニ就キタルカ右就
職後ノ方略ニ付テハ陳ハ広東攻入リヲ固執シ林虎ハ方本仁
ノ依頼モアリ北伐連軍牽制ノ為江西入りヲ主張シ一致セサ
リシ処当館諜報者ノ総指揮部側ヨリ得タル報道ニ依レハ陳
モ遂ニ林虎ノ主張ヲ容ルルニ至リ林虎部隊ハ今ヤ贛南(江
西ノ南)ノ龍南定南方面ニ出兵シ来ル十日ニハ林虎身自ラ
出陣ノ予定ニシテ尚陳軍ハ既ニ方本仁及周蔭人ト提携シ北
伐軍平定後閩院兩軍後援ノ下ニ広東総攻撃ニ移ルコトニ確
定セル由ニテ右ハ一般ニモ肯定的ニ報道セラレツツアリ
北京ヘ転電シ上海、九江、福州、厦門及広東ヘ暗送セリ

七一五 一月七日 在雲南槽谷領事ヨリ
幣原外務大臣宛

雲南軍ノ両広方面ヘ進出計画ニ関シ報告ノ件

機密公第二二号 (二月二日接受)

大正十四年一月七日

在雲南

領事 槽谷 廉二(印)